

令和3年度 栃木県立上三川高等学校学校評価表

教育目標	心身両面にわたって鍛え、愛情あふれる豊かな人間性と確かな知識の獲得に勉めるとともに、新たな知恵の創造に励むことのできる人間を育成する。		
本年度の重点目標	(1) 生徒の主体的な学習を促す指導及びキャリア教育の充実 (2) 健全な心身の成長のための実践的指導 (3) 安全面に配慮しながらの部活動の活性化		
評価項目	具体的な取り組み	アンケート	評価
ア 上高精神の「日常化」	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の服装頭髪指導を通じて「きちんとした服装」の実現を図る。 ・朝の昇降口立哨指導や移動教室の迅速化を通じ、時間厳守の徹底を図る。 	生徒⑩ 保護者⑦ 教職員⑪	B
イ 資格取得への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科及びクラス担任で事前指導などの受検者増に結びつくような取り組みを行う。 	生徒① 保護者① 教職員①	A
ウ 学習指導に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の内容を再確認し、各担当者が計画的に実施する。 ・生徒が朝学にしっかり取り組めるよう、担任(副担任)は10分間の時間確保に努める。 	生徒②③④ 保護者② 教職員②③④⑥	B
エ 進路指導に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・進路部と各学年が連携し、進路情報の精選と提供を行う。 	生徒⑤ 保護者③ 教職員⑥	B
オ 健康指導に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・係、担任、養護教諭等職員が連携し、生徒の健康観察と指導、啓発を行う。 ・新型コロナウイルス感染症予防に努める。 	生徒⑥⑫ 保護者④⑪ 教職員⑦⑭	A
カ 部活動の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問間の横の連携を密にする。 ・「部活動紹介」「部活動見学 Day」を実施する。 ・感染症対策を徹底したうえでの文化部発表週間を計画し、発表の場を設ける。 	生徒⑧ 保護者⑥ 教職員⑨	B
キ 生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、係ほか職員が、面談週間の適切な実施と教育相談アンケートの活用、生徒観察、生徒から話を聞くことに取り組み、情報共有し組織的対応をはかる。 	生徒⑦	A
ク 生徒会委員会活動の自主的運営	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の日々の活動内容や行事等での役割を明確にする。 ・達成感や自己肯定感をもたせることで、活動の自主的運営につなげる。 	生徒⑨ 教職員⑩	B
ケ P T A や関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、通知を通して、P T A 役員や保護者との連絡を密にとる。 	保護者⑤⑧⑨ 教職員⑧⑫	A
コ いじめ対策への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がそれぞれの立場で生徒観察と生徒、保護者の声を聞き、早期発見に努める。 ・情報を共有し、組織的に対応できる体制を作り、適切な支援と指導に努める。 	生徒⑪ 保護者⑩ 教職員⑮	A
評価について	A…「十分に達成されている」 B…「だいたい達成されている」 C…「不十分な面がある」 D…「達成されていない」		
反省・今後の改善方策 <全体として> アンケート結果のうち、「生徒による評価」は朝の学習に関する質問以外の項目で肯定的評価が8割を上回ったことから、生徒は本校での様々な活動に概ね満足していると評価できる。新型コロナウイルス感染症対応についても、生徒・保護者ともに「対応措置を十分にとった」との回答が9割以上であったが、引き続き感染症対策に努めていきたい。 <進路指導・学習指導について> 生徒アンケート結果の経年変化より、進路や学習領域での取り組みが生徒の意識向上の面で効果を上げているものと読み取ることができる。しかし、以前からの課題である朝の学習は、一昨年度以来、再び肯定的評価が8割を下回ってしまった(前年度比 3.9 ポイント減)。次年度は、朝学の位置付けをより明確にし、進路部主導で生徒の前向きな姿勢を引き出したい。また、コロナ禍で保護者へ対面での情報提供の機会が減少し、進路情報が保護者に十分に伝わっていないと考えられるため、今後、保護者への情報提供を工夫していきたい。 <生徒指導について> 生徒指導に関する生徒アンケートの経年変化をみると、概ねすべての質問において肯定的評価が増加しており、生徒が安心・安全な学校生活を送れる環境づくりへの取り組みが効果を上げていると考えられる。特に近年は生徒の問題行動に対する「強い指導」よりも、教育相談的アプローチからの「寄り添う指導」の重要性が増す中で、担任・生徒部・スクールカウンセラーや管理職が一体となった丁寧な指導体制の構築を進めており、その成果は生徒アンケート⑦に表れていると思われる。また、生徒会委員会活動の自主的運営に関しては、何をもち「自主的」とするかが不明瞭であり、次年度に向け具体性をもたせることが検討課題として挙げられる。 <いじめ対策について> 生徒アンケート⑩では、「学校はいじめの防止・解決に取り組んでいる」との肯定的評価が90%近くであった。しかし、約1割の生徒は取り組みが不十分であると感じていることから、潜在的にいじめが存在している可能性を念頭に置き、いじめ根絶へ向け引き続き全教職員一丸となって対策に取り組んでいかなければならない。			